



M E N U

豊富なネットワークを駆使した支援を実施！！

1. 地元企業の成長支援

○地域産業の成長と復興、進出企業の立地等を支援！

地域未来牽引企業の推薦・支援

経済産業省より選定された地域経済の中心となる事業者である**地域未来牽引企業**に対し、事業展開にかかる支援を強化しています。



地域未来牽引企業

当行推薦・選定企業数：31社
※公募はこれまで2018年度・2020年度の2回実施

補助金申請等を重点支援しています！

【支援事例】

被災造船業者4社の新造船所建設を支援

「株式会社みらい造船」 (気仙沼市)



(最新鋭の造船施設)

【支援事例】

震災復興に向けた 販路回復・拡大支援・ 補助金申請サポート

「株式会社木の屋石巻水産」 (石巻市)



(金華さば缶詰等)

2. ビジネスマッチング・販路開拓

○豊富なネットワークでビジネスチャンスを提供！

商談会での取引実績

商談会の開催件数：50回超！！



当行担当が当日の展示会・個別商談会を全面サポート

【案内・協力している商談会】
「食材王国みやぎビジネス商談会」、
「おいしい山形・食材王国みやぎビジネス商談会」
「地方銀行フードセレクション」など
※新型コロナウイルス感染症対応によりオンライン開催も実施

【支援事例】

商談会を契機とした 県産品のPR・販路 拡大等支援

「有限会社伊豆沼農産」 (登米市)



甘酒「初恋さくら」の航空機内提供

3. 産学連携支援

○地域課題と経営課題の双方を産学の力で解決！

地元大学（東北大学・宮城大学） や研究機関等と連携

【支援事例】

新製品開発を通じた課題解決支援

「株式会社花見台自動車」 (福島県いわき市)



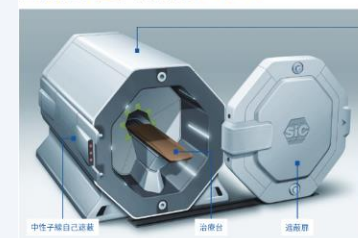
宮城大学との連携
国内初となるスライド
型積載車両
「セフテーロード」の
機能向上と差別化

【支援事例】

被災地における雇用・新産業創出支援

「福島S i C応用技研株式会社」 (福島県双葉郡楢葉町)

医療用中性子線照射システム



国立研究開発法人
科学技術振興機構
「研究成果最適展開
支援プログラム」
⇒イノベーション・
コースト補助金活用
「がん治療装置開発」

画像提供：各社



M E N U

行内外のスペシャリストを活用し重点支援

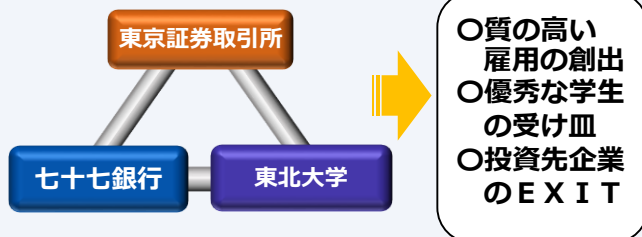
4. IPO支援

○信用力と知名度向上を支援！

①東北大学・東京証券取引所との連携

東北大学および東京証券取引所と連携し、株式市場活用を提案しています。

【支援内容】○計画策定支援 ○上場促進 ○情報発信



②仙台市との連携

仙台市が認定する「仙台未来創造企業」の上場に向け、上記三者連携協定を活用しながらサポートしています。



③IPO推進担当者を配置！

東京証券取引所トレーニーとして、IPOに関する実務経験を積んだ行員を専任者として配置し、東北地域企業のIPO実現に向けた支援に取り組んでいます。



5. 補助金等活用支援

○事業性評価を促進し、課題解決を全面サポート！

①生産性向上に向けた支援



補助金等活用セミナー
(2019年11月開催)



令和2年度中小企業施策合同説明会
(2020年2月開催)
※当行後援

「補助金等推進専任者」を配置し、本部・営業店間で連携しながら、生産性向上や新型コロナウイルス感染症の影響の打開に向け、補助金等の活用を促進しています。

【補助金活用の効果（例）】



②「ESG金融」を促進！！

SDGsの一環としてESG関連の取組みを行う企業に利子補給制度の活用を推進しています。当行は国から指定金融機関に指定されています。

制度名 (令和2年度)
省エネルギー設備投資に係る利子補給金
地域ESG融資促進利子補給事業

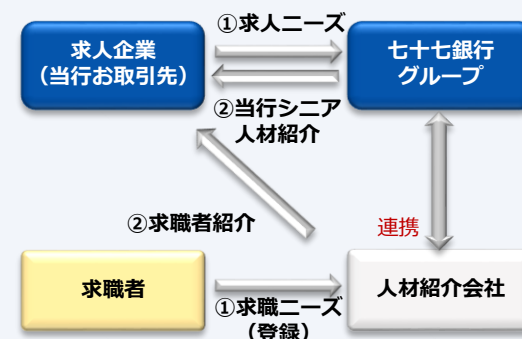


6. 人材紹介

○人材不足・後継者不在の課題を解決！

①人材紹介業務への参入

2020年9月に銀行本体で人材紹介業務を開始し、豊富なネットワークとコンサルティング力を発揮しながら、企業活動の中心を担う「中核人材」の紹介をはじめ、人材不足・後継者不在の課題解決を支援しています。



②「新現役交流会2.0」開催！



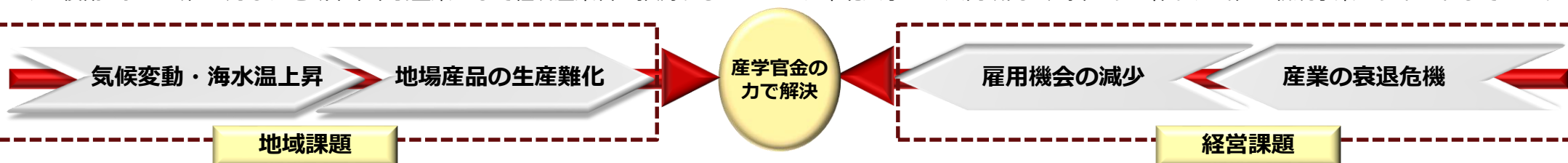
東北の被災3県の金融機関等が金融庁をはじめとした関係省庁等と連携し、地域の中小企業と首都圏企業OB (=新現役)を引き合わせるため、WEB面談と実面談を組み合わせる方式を用いて、経営課題解決に向けたサポートを実施しました。

●「株式会社力ネキ吉田商店」への産学連携支援

産学連携を通じた経営課題と地域課題の同時解決！！

メカブやウニ、アワビ等を取り扱う南三陸町の大手水産加工業者である株式会社カネキ吉田商店は、震災で甚大な被害を受けましたが、地域の産業と雇用を支え続けています。

当行は、震災や温暖化等の影響で水産資源の生育環境が変化している地域課題に対して、「環境変化に強いワカメの生育」を新規事業として立上げ、地域活性化に向けた役割を担う当社に対し、地域未来牽引企業として経済産業省へ推薦するとともに、東北大学との共同研究の足掛かりを作り、当社の新規事業をサポートしています。

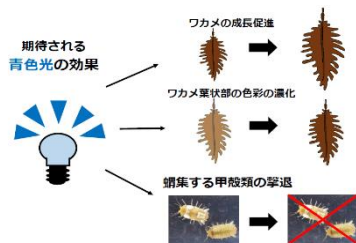


**「青色光照射によるワカメ種苗の品質
向上と優良種苗育成の可能性検討」**
(東経連ビジネスセンター・
新事業開発・アライアンス助成事業採択事業)

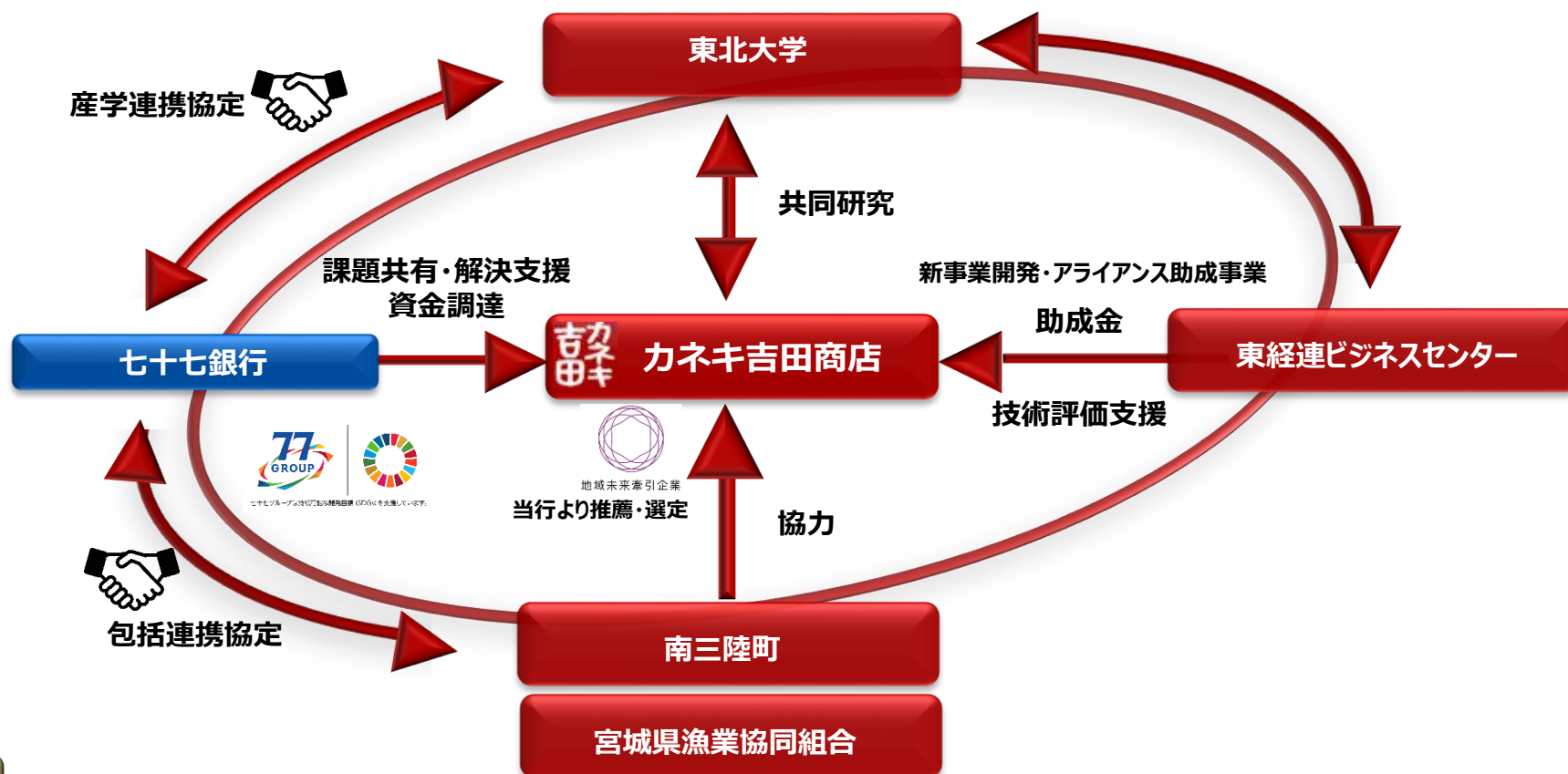
三陸地域のワカメ養殖は、地球温暖化やニホンコツブムシによる被害など様々な問題により収穫量が減ってきています。

本事業では、海中養殖場でワカメの幼体に対し青色LED 光を照射し、
①青色LED 光照射の効果（ワカメ成長、害虫忌避効果等）の明確化
②LED 光源の実用化に向けた課題解決に取り組めます。

効果が実証されれば、南三陸町のみならず、他の地域への横展開により、波及効果をもたらすものと期待されます。



画像・説明文提供：東経連ビジネスセンター



被災地における地域産業の基盤強化 と新たな観光資源の創出



●「有限会社菅原」へのクラウドファンディングを活用した支援

災害復興とともに地域特産物の新たなファンを創出！

有限会社菅原は宮城県の特産品である「伊達いわな」等の養殖を営む事業者です。令和元年台風第19号の影響により、事業継続が困難なほどの甚大な被害を受け、操業を継続するために緊急的な修復作業が必要となる中、資金調達と販路の確保が喫緊の課題となっていました。

当行では当社の状況を正確に掴んだうえで、単なる資金調達に留まらず、全国の投資家に対する「伊達いわな」のPR効果や、復興にかかる当社のPR効果等が期待できるクラウドファンディングの活用を提案することで課題解決の支援を行いました。この他にも事業性評価を通じ、企業の発展に資する支援に取り組んでいます。



台風による被災



資金調達・復旧



特産品の保守



伝統の継続

「伊達いわな」とは

伊達いわなは、有限会社菅原と宮城県が商標権を持つ宮城県の特産イワナで、宮城県内で養殖されていること、800g以上であることなどを主な条件としています。

「種なしスイカ」と同様の原理で開発された繁殖能力がない魚のことで、雌でありながら卵を持ちません。

「伊達いわな」は卵を温水に一定時間浸すことで通常2対の染色体が3対になり三倍体魚になります。この倍化処置を行えるのは、水産庁より許可を得ている菅原養魚場と宮城県内水面試験場のみです。

伊達いわな（上）と
通常いわな（下）



特定の地域にしかない特産物として、地域を支える銘品！！

